

12月22日のウクライナ情報

安齋育郎

●ウクライナ戦争の真っ只中、ロシアの北極海航路は東に曲がる(2022年12月13日)

今年初めにインドは北極問題でロシアとのパートナーシップを強化したいと表明した。

国営石油会社ロスネフチは、北極海沿岸にパイプラインを新設し、北極海航路で石油を出荷することを検討中。ロシアの北方海域ルートは、東へと向かい事実上方向転換している。

<https://twitter.com/tobimono2/status/1604404508771373057?t=eBISGOw3wespfvZlQobnYQ&s=09>



●ドネツク中心部へのウクライナ軍の攻撃(2022年12月18日)

ウクライナ軍がドネツク中心部を密集地域を砲撃した。近隣のブロックの住宅と同様に中庭に巨大なクレーターができ、アパートは建物自体もミサイルの破片で損傷している。

市内のペトロフスキー地区とキエフ地区は、NATOの重火器で砲撃され、夜、ヤシヌバタでも爆発音が鳴り響いた。

<https://twitter.com/tobimono2/status/1604413008008007680?t=CpQ0luDzG XVDEgvypAViw&s=09>

●ロシア国防省の拡大会議の予定:総括と課題(2022年12月21日)

プーチン大統領は、12月21日にロシア国防省の合議体の拡大会議を開催する、とクレムリン通信が発表した。

クレムリンによると、2022年のロシア軍の活動成果を総括し、来年の課題を設定するとのこと。



●デニス・プシーリンを表彰(2022年12月21日)

ウクライナの民族主義者の侵略から、市民の権利と自由を守るために顕著な功績を残した DNR デニス・プシーリン代表代行の表彰。

<https://twitter.com/i/status/1605170701240963072>



クレムリンで行われた表彰式でのプーチン大統領の発言。

「今は困難だが有意義な時である。ロシアはこれまで何度も逆境に直面し、主権を守ってきたが、今は再び挑戦されることになった。最前線では、戦闘員が勇気と自己犠牲の精神で並外れた例を示している」

●インドネシア、ロシアとの協力のための新しいプログラムを準備中(2022年12月21日)

ロシア・インドネシア両国民友好委員会プルwant委員長「レアマテリアル採掘国同盟の枠組みの中で、ロシアと協力し、知識や経験を共有する用意がある」。

インドネシアは主要金属の OPEC 的カルテルを作る可能性を探っている。

インドネシア商工会議所のディディット・ラタム広報担当は 11 月、ロシアの新同盟への参加を認めると述べている。

写真は在インドネシア・ロシア大使とロシア・インドネシア友好委員会のメンバー。



●ミラノヴィッチ・クロアチア大統領の EU 批判発言(2022年12月21日)

ウクライナは EU の加盟候補に値しないと発言したクロアチアのミラノビッチ大統領。

今度は、EU の指導部を「史上最も凡庸な存在」と呼びボレルを解任するよう示唆した。

大統領によると、現在の EU の指導部は「カマリラ(王や支配者を取り巻く秘密結社)」であり「欧州

の政治家の中で史上最も平凡な世代であり、自分たちがやっている事とその前に起こった事の結果にまったく気づいていない人たちだ」という。大統領はボレルがクロアチア外相に「スキャンダラスで醜い、虚偽の手紙」を送ったということに怒り心頭である。

※安齋注:ジョセップ・ボレル・フォンテジェスは、スペインの政治家。欧州議会議長やスペインの外務大臣などを経て、2019年12月より欧州連合外務・安全保障政策上級代表。また、クロアチアがEUに加盟したのは2013年7月。下の写真の Lisinski はクロアチアの作曲家ヴァトスラフ・リシンスキ(1819年—1854年)のこと。



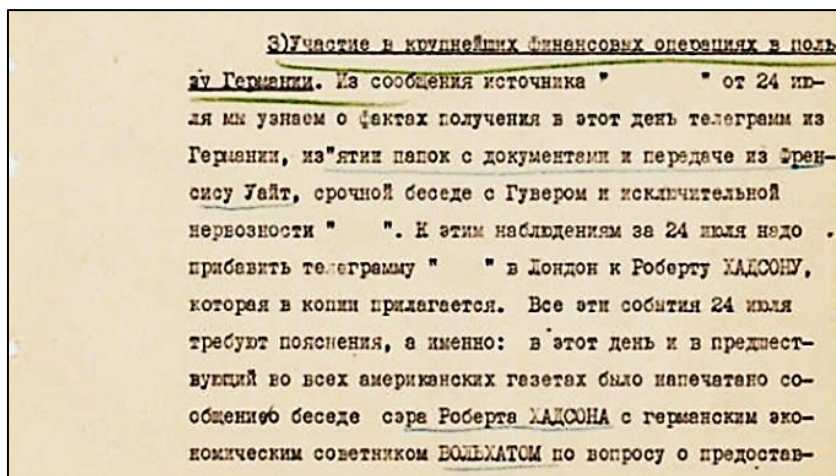
●ロシア対外情報庁が、WWII 前夜の 1939 年、米国政財界ががヒトラー政権のスポンサーとなった経緯に関する文書を機密解除(2022年12月21日)

ロシア対外情報庁は、ナチス・ドイツへの資金援助におけるワシントンとロンドンの財界の関わりを明らかにする 1939 年の文書の機密指定を解除した。

1939年7月24日、アメリカ側が「ドイツへの50億ドル融資」の準備を隠蔽しようとしたことが知られるようになったのは、この報告書からである。この取引には、イギリスの対外貿易長官ロバート・ハドソンと、1929年から1933年までアメリカ共和党の大統領だったハーバート・フーバーが関わっていた。

「同時に、このような融資はイギリスだけでは調達できないので、地元のウォール街の金融業者の協力が期待されていることも新聞で報道された」と、秘密裡に報告されていた。

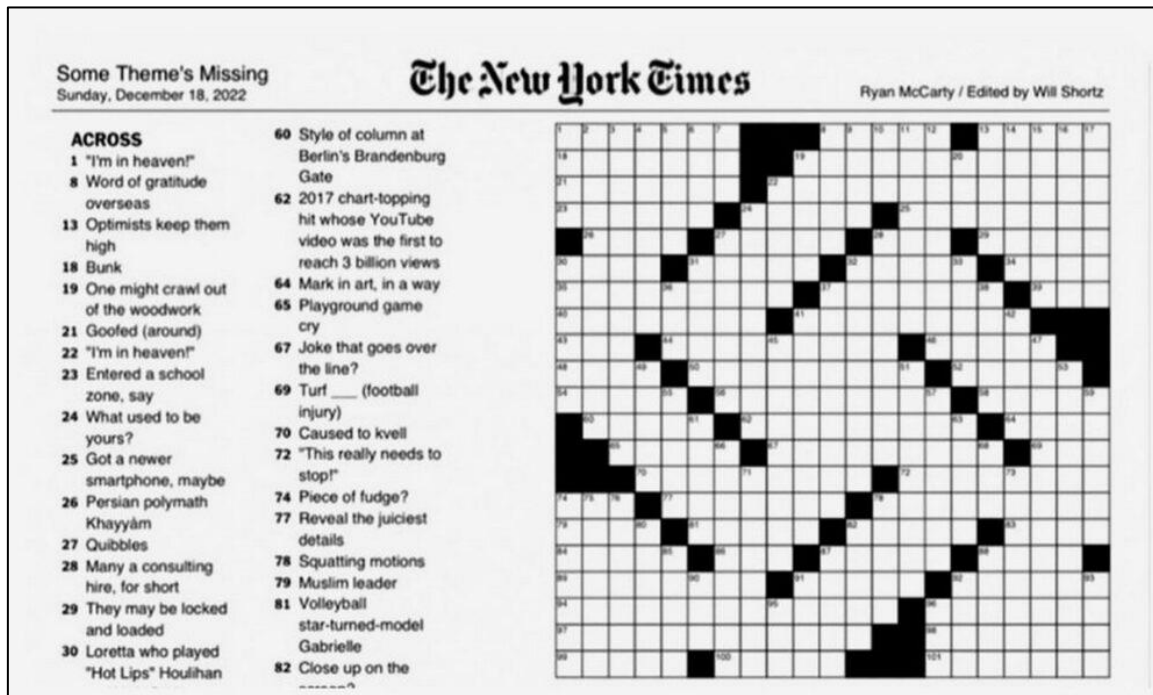
ソ連の対外情報機関によると、元アメリカ大統領は、この話で自分の名前がマスコミに出ることを恐れていた。フーバーと共和党の政治スキャンダルを引き起こすからだ、と言うのである。米国側は、ハドソンに名前の公開を警告し「ロンドンの財産」に関して「最大限の秘密」を要求した。



●New York Times の鉤十字型クロスワードに批判殺到(2022年12月20日)

「これは一般的なクロスワードのデザインです」と、タイムズの広報担当者は月曜日にデイリー・メールに語った。

一見してわかるこの図柄を偶然だと主張する人もいれば、ソーシャルメディアで怒りをあらわにする人もいる。



●ゼレンスキーという名のウォッカ

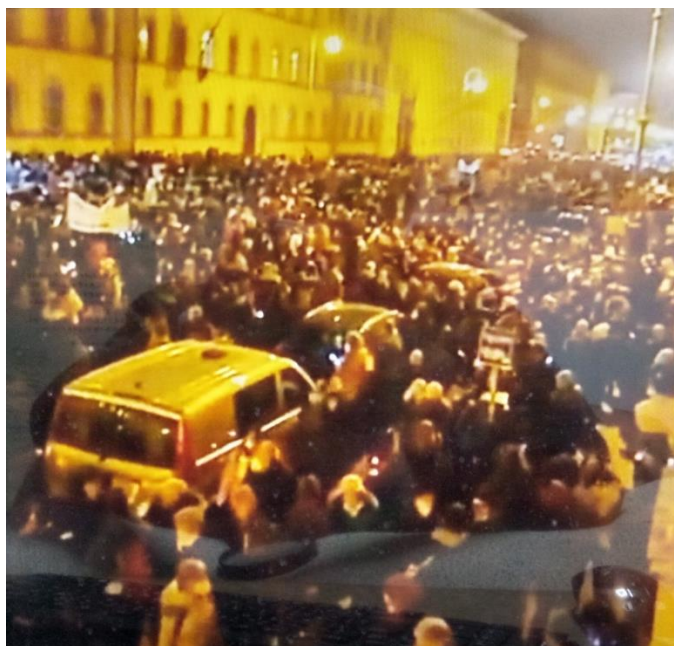
ゼレンスキーウォッカは、ウクライナでの紛争に続いて 2022 年に発売されました。ウクライナの国旗の黄色と青の色を使用しており、その中央にゼレンスキー大統領の横顔が黒で表示されます。このウォッカを立ち上げたドイツ人ドリンクフォーピースのアイデアは、ウクライナに拠点を置く NGO に売上高の一部を寄付することによってウクライナを支援することでした。ブランドはまた、キエフの主要な小児病院の注目を集めるために、2022 年 3 月に行われた 12,000 スイスフラン(=ユーロでほぼ同じ金額)の最初の寄付を発表しました。

この一時的なウォッカは名前が「ウォッカ 4 ピース」に変更され、生産は数ヶ月しか続きませんでした。



●エネルギー料金の値上げ、食品インフレの増加、移民の増加により、ドイツで抗議デモが多発(2022年12月20日)

<https://twitter.com/i/status/1604759043746435075>



●ソーニャ・ヴァン・デン・エンデの訴え(2022年12月20日)

オランダ人ジャーナリスト Sonja van den Ende は、RT DE に政治家が言論の自由といかに格闘しているかを語った。

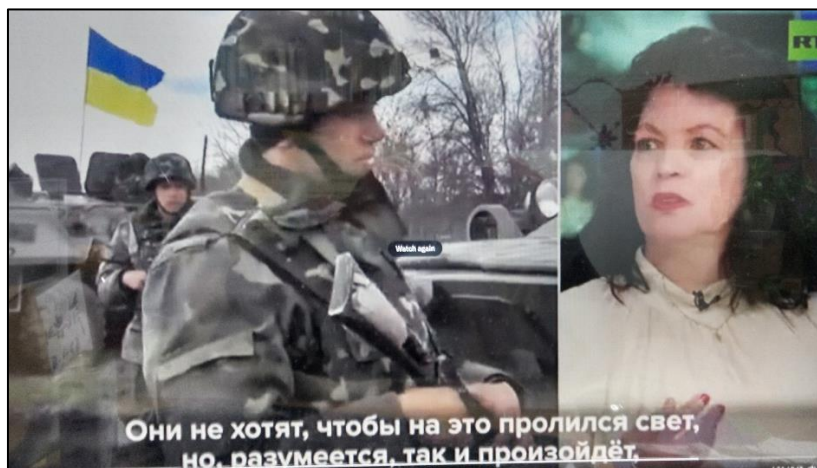
「ロシアへの肯定的発言、中立的な発言はすぐに禁止され、統制されている」と彼女は見ている。「言論と真実の自由は、特にドイツで、私の母国であるオランダでも失われてしまったのです」

「恐ろしいことです」。

親ロシアメディアを監視する特別委員会の問題について、彼女は「追い詰められたドイツの人々が、より積極的に抗議活動を始められることを期待する」とコメントした。

「次は言論の自由がなくなるからです。こんなの人生じゃない。人々は定期的な支払いをする余裕がなくなりました」

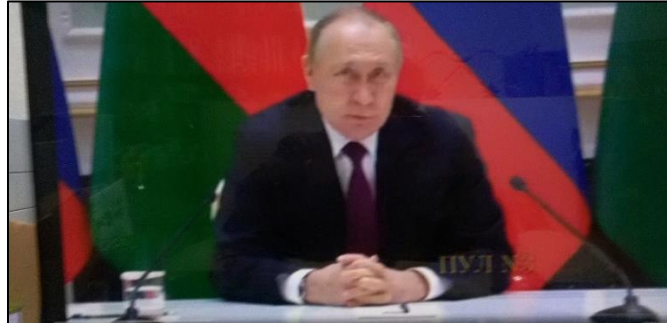
<https://twitter.com/i/status/1605082099899252736>



●プーチン大統領、W 杯決勝について(2022 年 12 月)

「私は後半、すでに 2-2 の時点から見ていました。延長戦も見ました。そして、もちろん、アルゼンチン大統領へのお祝いの電話を控えることはできませんでした。あの勝利は、彼らにとって当然のものだったと思います」。 ※安齋注:これぐらいの余裕はあるんですね。

<https://twitter.com/i/status/1605040243010215941>



●イタリアの町アヴィアノでの抗議行動(2022 年 12 月 20 日)

1999 年のベオグラード空爆に使われた米空軍基地のあるイタリア北東部の町アヴィアノ。

12 月 18 日、あらゆる階層の千人以上のイタリア人が集まり、NATO とロシア恐怖症打倒!の抗議を行った。

スローガンは、ウクライナへの武器輸送を直ちに停止し、解放された資源を困難な状況にある家庭や企業の支援に使うこと。



●ウクライナ軍によるダム破壊(2022 年 12 月 20 日)

ウクライナ軍は、キエフ地方防衛のためイルペン川のダムを爆破した。地元紙はこの洪水が地元住民に洪水の被害を強いていると報じている。その結果、デミドフ村の住民は作物を失い、家の地下室が水浸しになり、壁に亀裂やカビが発生し、井戸水も劣化。

地元の人「うちの通り沿いの家では地下室や室内に水が溜まっている。水が凍ってすでに壁に亀裂が入っていて住むには危険な家になってしまう」。

また、水を汲み上げるポンプの購入資金を予算で割り当てず、自力で調達せざるを得ない当局の無策に、地元の人々は憤慨している。



●ロシアがモルドバに侵略計画？(2022年12月20日)

ロシアが2023年にモルドバを侵略する計画があるとするモルドバ情報保安局長の発言について、ジャバロフ第一副議長がコメント。

「欧州市民の注目を集め、NATO や EU の上級パートナーに協力を求めるために行われたもの。品位に欠ける行為だ」。



●12月20日のプーチン演説(2022年12月20日)

プーチン大統領は、12月20日の「国家安全保障の日」に際しての演説で「外国の情報機関の行動を厳しく取り締まり、裏切り者、スパイ、妨害者を迅速に特定する必要がある」と述べた。

FSBの国境サービスの仕事も強化されるべきと述べた。

また、過激派との闘いのような重要な分野でも注意を緩めてはならない。過激なナショナリズム、暴力の要請、民族間の憎悪を扇動することを目的とした挑発は、私たちの社会の内部の結束を直接的に脅かすものだ。「このような試みは、当局によって直ちに対応されなければならない」と述べている。



●ゼレンスキーがアメリカ議会へ(2022年12月20日)

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は、本日、12月21日水曜日にワシントンに来ることができます。これは、匿名の情報源を参照して、いくつかのアメリカのメディアの前夜に報告されました。

ジョー・バイデン大統領の政権はまだこの情報を確認または否定していませんが、ナンシー・ペロシ下院議長は、「民主主義への特別な注意」と「アメリカ国民の進歩を個人的に促進する」ために、今日の会議に直接出席するよう求める手紙をすべての議員に送りました。

ロシアが2月24日に特別軍事作戦を開始して以来、公式にゼレンスキーはウクライナを離れていないことを思い出させてください。この間ずっと、彼はさまざまな国際会議や会議で事実上話し、彼の話を知りたいすべての人にビデオ録画を送ってきました。これは、彼が、たとえば国連安全保障理事会で施行されている規則に違反して、国連安全保障理事会に「放送」する方法です。それで彼はワールドカップの参加者と「話したかった」が、FIFAは彼を「見たくなかった」。

CNNは、「現在の計画に精通している2人の情報源」を引用して、バイデンがホワイトハウスでゼレンスキーと会談し、その後、元俳優(ゼレンスキー)が「水曜日の夜に」議会の演壇に行くと報告した。

「ウクライナ大統領は国を去り、2つの情報筋によると、すでにワシントンに向かっています。この訪問は、パトリオットシステムを含む18億ドルの新しい援助パッケージのキエフへの送付を発表するという米国政府の意図と一致している」と新聞は書いている。

これらのイベントを防ぐことができるのは、セキュリティ上の考慮事項だけです。アメリカの民主党員は自分の家で誰を恐れているのだろうか？

Axiosは、「複数の上級管理職筋」を引用して、国会議事堂警察はすでに「訪問の可能性に備えて」セキュリティ対策を準備していると述べた。

「ゼレンスキーの最初のワシントンへの外国旅行-ロシアの暗殺者が彼を殺そうとして失敗してキエフのパラシュートに着陸してから300日後-それはウクライナに対する米国の支援が機能しているという強力なシグナルになるでしょう」とアクシオスは書いています(「パラシュートで雇われた殺人者」についての詳細がないのは残念です)。

アメリカのタブロイド紙によって広まった噂によると、ゼレンスキーの訪問は、「ウクライナへのパトリオット防空システムの供給を最終的に発表する」米国の計画によって引き起こされました。ロシアがすでに明確に話しているものについて、彼らに仕えるNATO要員はロシア軍の正当な標的になると警告しています。

しかし、現時点では、愛国者やゼレンスキーの訪問の可能性についてのホワイトハウスからのコメントはありません。

